

大学等におけるアイヌの人々の遺骨の保管状況の再調査結果

平成29年4月
文部科学省

1. 調査の目的

平成26年1月に取りまとめた前回調査以降、保管している遺骨数が増減している大学があること、また前回調査時に学内の周知・調査が徹底されていなかった大学があったこと等が判明したため、前回調査で遺骨を保管していないと回答した大学等を含む全大学等に対し、改めて確認調査を実施した。

2. 調査の時期

平成28年8月に調査票を各大学等に発出し、平成28年10月31日を回答期限として、平成28年現在の保管状況を調査した。

3. 調査の対象

全国公私立大学、全公私立短期大学、全大学共同利用機関法人

4. 遺骨を保管している大学の数と遺骨の数

- ・遺骨を保管している大学の数は12大学である。
(北海道大学、東北大学、東京大学、新潟大学、京都大学、大阪大学、札幌医科大学、大阪市立大学、南山大学、天理大学、岡山理科大学、東京医科歯科大学)
- ・個体ごとに特定できた遺骨は1,676体である。
うち、個人が特定できる遺骨は38体である。
- ・個体ごとに特定できなかった遺骨が382箱に納められている。
(注) 箱の大きさは大学により異なる。

大学名	個体ごとに特定できた遺骨		個体ごとに特定できなかった遺骨
		うち、個人が特定できる遺骨	
北海道大学	1, 0 1 5 体	3 4 体	3 6 7 箱
東北大学	2 0 体		1 箱
東京大学	2 0 1 体		6 箱
新潟大学	1 6 体		2 箱
京都大学	8 7 体		
大阪大学	3 2 体		1 箱
札幌医科大学	2 9 4 体	4 体	
大阪市立大学	1 体		
南山大学	1 体		
天理大学			5 箱
岡山理科大学	1 体		
東京医科歯科大学	8 体		
計 12 大学	計 1, 6 7 6 体	計 3 8 体	計 3 8 2 箱

5. 個体ごとに特定できた1, 676体について

(1) 大学が保管に至った時期・経緯

①時期

戦前においては、1878年から1944年までの期間に900体（約54%）が収集され、戦後においては、1950年から2014年までの期間に654体（約39%）が収集された。また、大学が保管に至った時期が不明の遺骨が122体（約7%）ある。

②経緯

「研究のための収集」による遺骨が961体（約57%）あり、「(地方公共団体や個人等の) 他者からの寄託」による遺骨が438体（約26%）、「地方公共団体からの依頼による調査」による遺骨が213体

(約13%)、その他の場合が2体ある。また、大学が保管に至った経緯が不明の遺骨が62体(約4%)ある。

(2) 発掘・発見された時期・経緯等

①時期

戦前においては、898体(約54%)が発掘・発見され、戦後においては、601体(約36%)が発掘・発見された。また、発掘・発見された時期が不明の遺骨が177体(約11%)ある。

(注) 1980年以降に発掘・発見された遺骨は、遺跡の発掘や工事中の発見による。

②経緯

発掘された遺骨が990体(約60%)、墓地改葬に伴う遺骨が219体(約13%)、工事や地質調査等の際に発見された遺骨が117体(約7%)、その他の場合が37体(約2%)ある。また、発掘・発見された経緯が不明の遺骨は313体(約19%)ある。

③発掘・発見主体

大学の研究者が発掘・発見した遺骨が854体(約51%)、地方公共団体が発掘・発見した遺骨が381体(約23%)、個人等、地方公共団体以外の者が発掘・発見した遺骨が91体(約5%)、発掘・発見した主体が不明の遺骨が350体(約21%)ある。

④発掘・発見された場所

北海道が1,472体(約88%)であり、樺太(サハリン)が138体(約8%)、千島列島が48体(約3%)、発掘・発見された場所が不明の遺骨が18体(約1%)である。

(3) 大学に保管されている遺骨の状況

①遺骨の部位

頭骨が828体(約49%)、全身骨が734体(約44%)、四肢骨等が58体(約4%)、その他(歯など)が56体(約3%)である。

②遺骨の帰属年代

1868年以降の遺骨が216体(約13%)あり、1867年以前の遺骨が259体(約16%)ある。また、1603年頃から1867年頃の遺骨が151体(約9%)ある。帰属年代が不明の遺骨が1,050体(約63%)ある。

③遺骨の性別

男性の遺骨が342体(約20%)であり、女性の遺骨が262体(約16%)である。性別が不明の遺骨が1,072体(約64%)ある。

④遺骨の推定年齢

成人の遺骨が1,413体(約84%)あり、子どもの遺骨が206体(約12%)ある。不明の遺骨が57体(約3%)ある。

⑤遺骨の文化財への認定の有無

地方公共団体により文化財に認定された出土品である遺骨が123体(約7%)ある。

(文化財に認定した地方公共団体)

北海道教育委員会及び北海道内の1市

⑥副葬品の有無

副葬品があることが確認できた遺骨は685体(約41%)である。そのうち、14体に伴う副葬品は、地方公共団体により文化財に認定された出土品である。

(文化財に認定した地方公共団体)

北海道内の2市町

(注) 以上に加え、特定の遺骨との対応が明確ではない副葬品がある旨の回答があった。なお、これらの副葬品には、地方公共団体により文化財に認定された出土品はない。

⑦保管部局

保管部局が医学系の学部・研究科である遺骨が1,331体(約79%)、大学博物館である遺骨が293体(約18%)ある。また、その他の保管部局である遺骨が52体(約3%)ある。

⑧保管場所

医学系の学部・研究科で保管されている遺骨が1,342体(約80%)あり、大学博物館で保管されている遺骨が301体(約18%)ある。また、その他の施設で保管されている遺骨が33体(約2%)ある。

⑨保管方法

木製の箱に保管されている遺骨が1,576体(約94%)あり、プラスチック製の箱に保管されている遺骨が87体(約5%)、紙製の箱に保管されている遺骨が5体、その他が8体ある。

(注) 箱の大きさは大学により異なる。

6. 個体ごとに特定できなかった382箱について

(1) 大学が保管に至った時期・経緯

①時期

戦前においては、1888年から1938年までの期間に105箱（約28%）が収集され、戦後においては、1949年から1973までの期間に41箱（約11%）が収集された。また、大学が保管に至った時期が不明の236箱（約62%）がある。

②経緯

「研究のための収集」による遺骨が108箱（約28%）、「地方公共団体からの依頼による調査」による遺骨が33箱（約9%）、「(地方公共団体や個人等の) 他者からの寄託」による遺骨が3箱（約1%）、収集した民族文化資料の中に含まれて収蔵された遺骨が5箱（約1%）、大学が保管に至った経緯が不明の遺骨が233箱（約61%）ある。

(2) 発掘・発見された時期・経緯等

①時期

戦前において発掘・発見された遺骨が99箱（約26%）あり、戦後において発掘・発見された遺骨が37箱（約10%）ある。また、発掘・発見された時期が不明の遺骨が246箱（約64%）ある。

②経緯

発掘された遺骨が100箱（約26%）あり、墓地改葬に伴う遺骨が33箱（約9%）ある。土地や地質調査等の際に発見された遺骨が1箱、発掘・発見された経緯が不明の遺骨が248箱（約65%）ある。

③発掘・発見主体

大学の研究者が発掘・発見した遺骨が103箱（約27%）、地方公共団体が発掘・発見した遺骨が31箱（約8%）、地方公共団体以外の者が発掘・発見した遺骨が3箱（約1%）、発掘・発見した主体が不明の遺骨が245箱（約64%）ある。

④発掘・発見された場所

北海道が279箱（約73%）であり、樺太（サハリン）が10箱（約3%）、千島列島が17箱（約5%）、発掘・発見された場所が不明の遺骨が76箱（約20%）である。

(3) 大学に保管されている遺骨の状況

①遺骨の部位

全身骨が208箱（約55%）、四肢骨等が17箱（約5%）、頭骨が9箱（約2%）、その他（歯など）が148箱（約39%）である。

②遺骨の帰属年代

1912年以前の遺骨が3箱（約1%）、1888年から1924年までの遺骨が9箱（約2%）ある。帰属年代が不明の遺骨が370箱（約97%）ある。

③遺骨の文化財への認定の有無

地方公共団体により文化財に認定された出土品である遺骨が2箱ある。

（文化財に認定した地方公共団体）

北海道内の1市

④副葬品の有無

副葬品があることが確認できた遺骨が261箱に納められている。地方公共団体により文化財に認定された出土品である副葬品はない。

（注）以上に加え、遺骨が納められた特定の箱との対応が明確ではない副葬品がある旨の回答があった。なお、これらの副葬品には、地方公共団体により文化財に認定された出土品はない。

⑤保管部局

保管部局が医学系の学部・研究科である遺骨が367箱（約96%）、大学博物館である遺骨が13箱（約3%）ある。また、その他の保管部局である遺骨が2箱（約1%）ある。

⑥保管場所

医学系の学部・研究科で保管されている遺骨が368箱（約96%）あり、大学博物館で保管されている遺骨が13箱（約3%）ある。また、その他の施設で保管されている遺骨が1箱ある。

⑦保管方法

木製の箱に保管されている遺骨が380箱（約99%）あり、紙製の箱に保管されている遺骨が2箱（約1%）ある。

（注）箱の大きさは大学により異なる。

大学等におけるアイヌの人々の遺骨の保管状況の再調査結果 増減表

前回調査（H26. 1取りまとめ）

今回調査（H29. 4取りまとめ）

	個体特定 (体)	特定不可 (箱)		個体特定 (体)	特定不可 (箱)	増減	増減理由
北海道大学	1,027 体 【特定遺骨】 19 体	484 箱		北海道大学	<u>1,015 体</u> 【特定遺骨】 34 体	<u>▲12 体</u> <u>▲117 箱</u> 【特定遺骨】 <u>15 体</u>	訴訟和解による返還 自治体への移管 個体特定作業の実施 新たな資料に基づく個人特定
東北大学	20 体	1 箱		東北大学	20 体	1 箱	増減なし
東京大学	198 体	6 箱		東京大学	<u>201 体</u>	6 箱	<u>3 体</u> 前回調査時の記入漏れ等
新潟大学		17 箱		新潟大学	<u>16 体</u>	<u>2 箱</u>	<u>16 体</u> <u>▲15 箱</u> 発掘調査報告との突合による個体特定 (遺骨総数の増減なし)
京都大学	94 体		⇒	京都大学	<u>87 体</u>		<u>▲7 体</u> 古人骨の除外、記録に基づく再整理
大阪大学	39 体	2 箱		大阪大学	<u>32 体</u>	<u>1 箱</u>	<u>▲7 体</u> <u>▲1 箱</u> 古人骨の除外
札幌医科大学	251 体 【特定遺骨】 4 体			札幌医科大学	<u>294 体</u> 【特定遺骨】 4 体		<u>43 体</u> 自治体からの寄託 記録に基づく再整理 古人骨及び和人遺骨の除外
大阪市立大学	1 体			大阪市立大学	1 体		増減なし
金沢医科大学	4 体			金沢医科大学	<u>0 体</u>		<u>▲4 体</u> 入手経緯精査により調査対象外と判明 (非アイヌ、法令に基づく交付)
南山大学	1 体			南山大学	1 体		増減なし
天理大学		5 箱		天理大学		5 箱	増減なし
岡山理科大学	1 体			岡山理科大学	1 体		増減なし
				東京医科 歯科大学	<u>8 体</u>		<u>8 体</u> 学内再調査より判明
計 12 大学	<u>計 1,636 体</u>	<u>計 515 箱</u>		計 12 大学	<u>計 1,676 体</u>	<u>計 382 箱</u>	<u>計 40 体増</u> <u>計 133 箱減</u>

※ 〔 個体特定：同一人物のご遺骨として特定されたもの[体]
 特定遺骨：個体特定遺骨のうち個人（身元）が特定されたご遺骨[体]
 個体特定不可：個体特定ができていないご遺骨[箱] 〕

※下線は今般の再調査によって変動のあった箇所